竜丘時報

昭和六年二月五日印刷納本
昭和六年二月七日發行（非賣品）
編輯兼發行人　長野縣下伊那郡竜丘村一五七二番地　中田史郎
印刷人　長野縣飯田町六一四番地イノニ　木下勝義
發行所　長野縣下伊那郡竜丘村　竜丘青年會　代表原喜代司
印刷所　長野縣下伊那郡飯田町主税町　木下活版所

◎發刊の辞

ここに昭和六年を迎え、竜丘時報を發刊するに當りて其の發刊の意義と而して役割とを闡明するの必要に迫られた。

○

次の時代が良いか惡いかは批判の限りではないが、次代の建設のためには、現在を正しく吟味し知悉しなくてはならない。

時報發行といふも究極は現在を究めて未來に處する具象的方便の意圖に過ぎない。

青年は最も未來を翼望し將來に生くるべきもの故に、その事業こそ最も相應しいではないか。

○

變化は自然であり、進化は努力である。未來に向つての努力は或ひは解消となり、精算となり、破壞となり、結合となり、組織となり、建設となつて不斷の進化を續ける。

其の發展過程に於ける種々相こそ、本誌に錄して、以て現在の吟味批判の資となし、未來への亦一參考となさんとするものである。

○

時報生れて二年、生の親先輩諸兄の勞苦を謝す。

同時に今后隔月に發行する時報の爲後援あらん事を、亦一般村民の方々も。

◎經濟不況の價値

岡村勝太郎

幾年か前に某敎會の講釋を聞いた事がある。何んでも八字鬚を生したいかめしい先生が案をたゝいて幸福な人と云ふ題で滔々と辯じた。

概要は我等は必竟暖い處で美味い物を食て暮し得るならば之に越した幸福はない。慓へ々々苦い顏をして厭や々々生命の糧をかぢるなんて、神樣の御惠を無視する罰當りだ。こんな者は健康も望めないし長生きの出來る筈がない。

どうせ暮すなら一代は一代だ尊樣の御助けを受け、暖い日に美味い物でも食べさして頂いて毎日良い心持で、達者に長生きをしたいものだ。と咳一咳偖てと仕切て曰くそんな事は誰だつて願ふ所だが、吾々貧乏人の出來る事でないと思ふ者があるかも知れんが飛んだ間違ひだ、まあやつて御覽なさい寒ければ寒い程、うんと働けば溫くなるしうんと腹が減て來る、何を食つたつて苦味いものなしだ。秘傳はこゝだやつぱり尊樣の御利益と云ふものだ」

と中々美味い說敎だと感心して聞いた。時恰も嚴寒の候、話が濟んで座に下つてから先生はあゝ寒かつた胴振るへがすると、火炬に當て茶を飲みながらどうも田舍の菓子に美味いのが無いなあと嘆息せられた。

私の知て居る常に敬意を拂て居た人が若い時分に病身で醫師の診斷では肺が弱いからと、烈しい運動は遠慮して滋養物の攝取を勸めて居た。それに學校の先生であるが當分の內學校への出勤を止められた、が其人は敎育事業は自分に與へられた責任だから止める事は出來ない。仮令躰は何ふなつても責任を放棄して迄長らへ樣とは思はない、子供を棄てる事は神樣を神樣を棄てると仝じで忍ぶ事は出來ない、醫師の勸告に隨て生きんより神樣の御旨に從て死ぬ方が增しだ。自分の靜養は生徒と共に運動する所に求め得られる、輕井澤や箱根は、私に何の關係はないビタミン價値は牛肉鷄卵に求めずとも三杯の麥飯二杯の味噌汁二切の澤庵に充實せられやう。校庭に生徒と共に喜戲し學舍に生徒と倶に學ぶ、これが自分の願だと斷然醫を退けた。爾來一回の風邪も犯すの能はず、一度の胃病にも罹らない、隨て体重も增した、嘗て學校に健康診斷があつた時勿驚二十名の職員中第二番の强者と評せられた。

問題はこゝからだ

吾等は常に眞面目でありたい、眞劍な生活が欲しい。併し往々余興的玩弄生活が繰り返されて居る。似て非なる假面的僞善生活に流れて居る。

吾等は何と云ても動物だから本能の衝動に依て支配せられて居る樣だ。吾等の本能は享樂的だ、其共樂的滿足は、肉慾、物質慾、名譽慾だらふ。是等が稍充實しかけて來る時、總てが余興的になつて玩弄視する樣になる。本能滿足に欠乏すると眞面目に眞劍な生活になつて來る。

本能滿足決して否定すべきでない

眞劍生活必しも萬全とのみ思はない。二ツのものが程良く經緯せられて初て平和順調の社會が形成せらるゝのだ。それが人間の弱点は遇々偏頗になり易い、此消息を觀破した時世態が妙に目に映て來るではないか。

我に享樂の滿足ありて余興的生活を營み世を玩弄視する、不滿足により自ら眞劍なる生を營み眞面目に世を解釋する。世相は斯く回轉して居る樣だ。

座して理想を玩弄するのは御天氣の良い時、錢廻りの良い時、人に煽てられる時の事だ。

起て現實を体驗するのは、食なく錢なく名譽の追ふに遑なき時だ、見よ現時の世態を、理想講談の余興を聞く余裕の耳なく、空想に耽て大家を夢みる假面欺世の徒聲を潛めた。名譽を追て狂態を演ずる輩が鮮くなつた。何故だらふか或は食が乏しくなつたのか錢が少くなつたのか、蓋し經濟的不況が吾等の享樂慾望の妨げとなつて余興が出來ないのだらふ、妻子の飢を凌ぐ手段は三十錢の日當に身を投げ出して身心を練り、「詩を作るより田を作れ」「働く者の糧を得は宜なり』との眞理を体驗して居る。特に況んや思想惡化の宣傳者も、饑餓に追はれて主義の高唱を潛め眞劍生活に復歸せやうとする何たる嚴かな光景だ、家貧にして孝子現はると古聖老子は吾人に語て吳れた。悲む者は幸なり慰を得べければなり」と神人キリストは我等を慰撫し給ふた。

鞭打たざるも歩み、責められざるも働く、神聖を悟たのか內に喧噪の論議なく、外に依賴の卑怯なし百言一行の眞理に觸れたのか、獅子は蛇蝎と共に人間の子と遊ぶ。何んと美しい事だらふ、何んと莊嚴な事だらふ不況に對する生活苦の裡にこれが見出されると云ふのは皮肉だ。此皮肉は玩弄の變化だ眞劍の表現だ。

貧苦、困難、悲哀、不遇、讃美の聲を聞け余興に醉つた愚を悟りたい健忘性の我も。

人蠶一如の絶体郷

虫けらの盃は吾等の生命與奪のキャスチングボートを把握してゐる。其の吐出する白銀のかぼそい糸縷に人間の玉の緒は繫がる。

丘の村に於ける收繭年額八萬貫、その糸量六千貫は、虫けらにして虫に非ず人間にして人間に非ず、人と倶に生き蠶と倶に住み、人蠶一如の絶体境の驚くべき具現である。（中田生記）

昭和五年度小組合別一戸當收繭及び絲量

小組合名	員數	一戸當收繭量	一戸當糸量
桐林古瀨	一六名	二八九貫八五〇匁	三二貫〇五七匁
長野原第二	一七名	二五六貫七九〇匁	二八貫八〇七匁
桐林小池	二一名	二四二貫三九〇匁	二六貫二五九匁
仝安城	二一名	二二九貫四八〇匁	二五貫一六八匁
上川路中平	一八名	二〇七貫七〇匁	二二貫八九〇匁
時又新川	一一名	二〇一貫三六〇匁	二一貫七三九匁
龍西館組合平均	一戸當	一七一貫九四七匁	一八貫八四四匁

（以下略）

竜丘信用組合長の 英雄主義教育反對論

農村幹部大會に於てセンセイションを起す

去日下伊那郡聯合事務所で開かれた町村農會幹部大會で研究問題に入つてから龍丘村農會幹部の一人として出席してゐた同村信用組合長清水眞吾氏が初等敎育問題を提げて論じ立てセンセーションを捲き起した清水氏の意見は最近の小

……學敎育を見てゐると敎員に師範馳け出しの若い者が多いためか兎角敎授振りが突飛に流れ修身の時間に或ひは國語、歷史の時間に往々偉人を讃美し過ぎて子供の頭えヒロイズムの根を植ゑ付ける癖がある。偉人も英雄も確に賞讃に與する偉業を後世にたれてゐるから事蹟の單なる照會に止めるはよいが憧憬れを煽る結果子供の全部が太閤秀吉や德川家康になれると思つたり、近い例では一國宰相位ひ造作なく艚ぎ付けられるやうな考へを持ち伴れて都會讃美となり生れた農村を弊履の如く捨てゝ顧みぬ偏見を持つやうになる扨て問題はこの點だ。農村の子弟が甲も乙も丙も偉人に憧れ、都會を讃美して飛び出したなら後は一体何うなるのだ。この風潮が漸次濃厚になつた昨今の傾向は農村のため嘆かはしいこの際適當に敎育改善を計らぬかぎり百年の禍根を殘すことになる……

……

出席者の大半はこの意見に見を頃け讃意を表したが更に新らしくこの問題に付き協議會を開くことに決した

丘の村 彙報

低利資金

一、失業救濟農山漁村臨時對策低利資金トシテ本村ニ割當ラレタル額左ノ如シ

一、耕地擴張改良事業　二五〇〇圓
二、蠶桑改良事業　一三七〇〇圓
三、畜産諸施設　七〇〇圓
合計　一六九〇〇圓

二、仝上ニ對スル申請者左ノ如シ

一、耕地擴張改良事業

事業ノ主体	申請金額	種類
熊谷惣一外九名	八七〇圓	小開墾
岡村哲外九名	八三〇〇圓	仝
下平三七外九名	六三〇圓	水害復舊
小林鎌吉外九名	一七〇圓	用水路改良

二、蠶桑改良事業

荒廢桑園改植

熊谷惣一外九名ノ外二十九組合
合計二十一町九反五歩ノ改植

三、畜産諸施設

下平三七外一七名　四八〇圓　養鶏
木下寛一外九名　二二〇圓　仝

○徴兵適齢者

駄科區

久保田經男　久保田雅司
林　章夫　下平勝美
木下秀雄　牧島末吉
林　友彦　小島一雄
伊東良藏　加藤銀市
北澤富二男　代田治男
久保田幸人　關嶋博士
下平彦志　中平久良雄
北澤小太郎　牧嶋兼久
小林和三　北澤新太郎
下平一雄

長野原區

宮澤春　齊藤壽
今村順三　小林直之

時又區

下田貞雄　下田豊
下平正登　伊藤祐春
下平安雄　伊藤稻雄
原幾男　大見常次郎
沖田一　今村文次
伊原悅雄

桐林區

林義春　原英男
今村伊佐男　中嶋文男
原義茂　原登
原太一　塩澤芳一
伊藤一郎　林冬雄
林武男　林實男

上川路區

塚平睦雄　笠岡榮市
塚平勝一　清水釿治
笹岡恒夫　塩澤延男
清水靖夫　杉本春花
小室金二　牧内政吉
宮崎正雄　井口末渡

入營兵出發

去る一月八日折から降しきる雪中を勇ましく出發し、各々左記部隊に入隊す。

横須賀海兵團、第二十四分隊、第十教班　下平富夫
松本、歩兵五十聯隊、第十一中隊
第二班　土屋衛次
東京府、荏原郡駒澤町、野戰重砲兵第八聯隊、第一中隊、第一班　宮澤春
仝
仝　第三中隊、第四班　林友彦
千葉縣、千葉郡都賀村、鐵道第八聯隊、第七中隊、第五班　下平政美
東京府、荏原郡駒澤町、近衛野砲兵聯隊、第八中隊、第三班　杉山昌雄
横須賀海兵團、第十三分隊、八教班　山田實
十二月一、十日入營兵
千葉縣、東葛飾郡市川町、野戰重砲兵、第七聯隊、第二中隊
幹部候補生　前嶋季夫
朝鮮、咸鏡北道鐘城郡、歩兵七十五聯隊、鏡城守備隊　中嶋保
二月一日入營兵
宇都宮、野砲兵第二十聯隊、第二中隊　幹部候補生　伊藤祐男
横須賀、重砲兵聯隊、第四中隊　幹部候補生　中島正人

◎所感

中田鎌

町村ハ自治團体デアル、ソコデ自治体ノ實績ヲ擧グルニハ第一町村民各自ガ己ガ町村ヲ克ク了解スルコトガ必要デアル。優良ナル町村ニ付キテ調査シテ見ルニ、何レノ町村民モ能ク己ガ町村ヲ了解シテ居リ、何ヲ問テモ説明ガ出來ルコノ事柄ハ自治体トシテ極メテ重要ナ事柄ノ一デアル。ソレ故ニ各町村デハ努メテ町村ノ事情ヲ一般ニ知ラシムルコトニ努力スル。或ハ告示板ヲ用ヒタリ、或ハ村報ヲ發行シタリシテ、種々ノ方法ヲ用フル。

今回本村青年會ニ於テ青年時報ヲ隔月ニ發行シテ各戸ニ一部ヅヽ配布スルコトヽナリ、欄内ニ村内彙報ヲ設ケタノハ村自治上ヨリ見テ實ニ結構ナル企デアル希クハ奮勵努力自彊息マズ益々仝誌ノ發展ヲ祈ルモノデアル。

信用組合

第二十一年度諸報書、拔萃

組合員	五七五人
出資口數	三二一七口
出資金	六四三四〇圓
(仝上未濟)	一〇七六圓
貸付金	二五四三八二圓
無擔保	六一九件
	九一三八一圓
有擔保	三八二件
	一六三一〇〇〇圓
預ケ金	三三九七一圓
定期	三〇〇〇〇圓
當座	三五五六圓
特別當座	三九六圓
郵便貯金	一八圓
組合員貯金	五七五名
	一〇五五六三圓
家族貯金	一五五四件
	七六二七〇圓
團体貯金	七八〇件
	四五七五八圓
本年度剩餘金	五八五九圓

女子訓練所

昭和五年度狀況(四月より十二月まで)

一、訓練回數
普通　九回(早朝二時間)
特別　七回
天長節式參列
記念運動會參加
秋季遠足運動會
明治節式參列
令旨奉戴十周年記念式參列
青年訓練所査閲見學

龍西館

昨年度供繭左の如し

春繭	四四、一五八貫
夏繭	一一、一六七貫
秋繭	二三、七六三貫
計	七九、〇八九貫
一釜當(二一六釜)	三六六貫

農進社

農進社は農民の經濟生活の向上と、農業技術の進歩向上を目標にして立てられた古い過去を有する眞の農民の結合團体である。その後、半官製の農會ができ農家小組合が生れて其の事業も漸次縮少しては來たが、將來は特殊な事業に生くる計畫になつてゐる。

○昭和五年度決算

基礎金	三百九圓五十一錢
收入	百圓四十五錢
支出	九十五圓七十五錢

○前年度の重なる事業

イ、種子共同購入(四回)
ロ、必需品共同購入及び斡旋
ハ、競作田視察
ニ、育蠶法の研究
ホ、共同貯金ト、紅蕪採種

消防組

出初式ニ於テ表彰ヲ受ケタルモノ

氏名

本縣表彰
代田市郎　市瀨文三
今村代藏　今村岳
林泰雄　塩澤富雄

本郡表彰
木下元　下平和一
小林俊一　木下定一
牧内正吉　佐々木新六
竜丘消防組表彰
十五ヶ年皆勤者
塩澤喜一　原田喜男
久保田鈴太郎

十ヶ年皆勤者
下平喜三　小林俊一
井口寅吉　清水武雄
今村岳　木下定一
林泰雄　牧内助三郎
中島芳治　久保田芳一
佐々木新六　小笠原幸治

五ヶ年皆勤者
木下巖　木下元
下平光男　久保田金造
下田千俊　小池秀一
小林武一　山田佐衛門
杉本晃　笹岡定一
岡村賢作　中嶋幸
中嶋唯男　中嶋芳男
林七郎

十五ヶ年勤續者
下田昌司　前島唯男
下平周一　木下盛
下平備

―春蒔き白菜の作り方―

○【播種】……種子は一反歩に三合餘り。春蒔きは第一に最も良質の新らしい種子を撰ぶこと。春三四月頃なるべく早く苗床に下種し、發芽後二三日を經て極く輕く第一回の間引をなし、其の後生長と共に三四回の間引をなし、苗を畦巾二尺二三寸、株間一尺位に定植する。

○【肥料】……春蒔きは單期間に促成させるものであるから殊に多くの肥料を要する、豫め植付の箇所に穴を掘り十分の肥料を施し置く事。腐熟した堆肥を元肥に用ひ、第一回間引の時は第一回の追肥を行ふ。第二回は其後十日を經て、第三回は其後十二三日を經て最後の追肥は其後二三週間を經て行ひ打切る。

○右栽培法を怠る時は完全に結果しないことがある。

電氣組合

設備	
新川發電所	久米川發電所
架空線電話	二二、二八哩
需用家數	八八二戸
利用の狀況	
電燈	
定時	二九二五燈
養蠶	一五六六燈
臨時燈	八二二燈
電力	二六台
電熱	四五台
經營狀況	
總資産	一二三〇八七圓
本年度剩餘金	五五七八圓

町村稅徴收成績表

(昭和五年十一月末調)

本郡中成績優良村ト本村トノ比ヲ掲グ

町村名	納入百分比	等位
川路	一〇〇	一
座光寺	九九	一
生田	一〇〇	一
河野	九九	一
千代	九八	二
大島	九四	三
上郷	九四	三
會地	九三	三
神稲	九〇	三
上飯田	九四	四
○竜丘	八六	六

青年欄

◎竜丘青年會

昭和五年度決算報告

収入總額　五七五円二二二

内譯

前年度繰越金　五八、六四二
會員負擔金　二一二、〇〇〇
村費補助金　一五〇、〇〇〇
入會山植林手當金　八七、五〇〇
雜收入　六、七五〇

支出總額　五三一円六一〇

内譯

庶務部費　一〇〇、六一〇
教育部費　一六〇、〇〇〇
体育部費　一〇三、〇〇〇
圖書部費　一六八、〇〇〇
差引殘額　四三、六一二

昭和六年度豫算

収入總額　五一三円六一二

内譯（一人分八十錢ヅヽ二百名分）

會員負擔金　一六〇、〇〇〇
村費補助金　一五〇、〇〇〇
其同勞作收得金　一五〇、〇〇〇
雜收入　一〇、〇〇〇
前年度繰越金　四三、六一〇

支出の部

支出總額　五一三円六一二
庶務部費　一〇〇、〇〇〇
教育部費　一九〇、〇〇〇
体育部費　一一〇、〇〇〇
圖書部費　一一〇、〇〇〇
豫備費　三、六一二

本年度事業計画

○一　月
年始總會、講演會、各村圖書館視察、巡回貸出、會務報告書作成、圖書購入

○二　月
研究會、時報發行、武道大會、讀書デー、定例貸出（十四日）、愛讀者懇談會

○三　月
軍人慰問品發送、体育練習會、定例貸出（十四日）、圖書購入

幹部講習會へ

昭和六年二月二日ヨリ六日迄デ五日間下伊那郡國民精神作興會主催ニテ東京小石川區金鶏學院ニ於テ開催セラル。幹年幹部講習會ニ左記三名ノ諸氏本會ヨリ出席セラレ一日午后八時二十七分飯田驛出發シ是レヲ見送ル

北澤小太郎
今村代次郎
今村順三

圖書の寄附

桐林青年會では一月十六日支會文庫全部を圖書館に寄附した。多年宿望たりし文庫統一も此處に第一歩を踏み込んだ譯で有る。文庫統一が完全に行なはれる日も近くであらう。

小學校庭砂敷奉仕

小學校庭冬期凍結の爲め泥濘甚だしく兒童及び一般の迷惑に付き、去る一月三十一日及二月一日の兩日に亘り青年會員砂運びに出勤奉仕す。

會員諸兄に謹告

曩の校庭砂運びに全會員出勤克く御努力下され、校庭も大變に改善されし事と思ひます。此處に紙上を以て會員諸兄に御禮申上ます。
尚併せて學校當局より厚く御禮のありました事を謹告いたします。

各支會事業計畫

◎上川路青年會

一月　年始總會、寒稽古及納會、朗讀會、文藝會
二月　自治講習會、討論會、竹林手入
三月　研究會、軍人慰問、竹林手入、見學、塩水選
自治講習會時間割
一月二十八日七時より靜座朗誦會歌講演會新体詩朗讀唱歌練習レコード茶菓、二十九日靜座朗誦會歌講演會唱歌練習レコード茶菓、三十日靜座朗誦會歌講演會討論會新体詩朗讀會レコード茶菓、三十一日所感發表雄辯會唱歌復習茶菓餘興

講師と演題

二十八日　吉野福一氏、青年期
二十九日　農學校小熊彦三郎氏、園藝
三十日　森鑑吾氏、視察所感

◎時又青年會

一月　年始總會　辯論會並ニ例會
寒稽古並ニ講習會
二月　紀元節祝賀會　例會並ニ座談會　雪中行軍
三月　例會並ニ座談會　見學遠足
月見草手入
初午竜丘村產品即賣デー

◎桐林青年會

一月　年始總會、合宿訓練、藁細工講習會並品評會、文庫貸出
二月　時事問題研究會、雪中行軍
農業經營視察、文庫貸出
三月　座談會、体育練習會、講演會、文庫貸出

變つた藁細工講習

桐林青年實業部では一月下旬より約三週間の豫定にて各班別に夜間の藁細工講習會を開き各自得意の製作品の秘訣を敎へ合ひ、大きに不況の時に際し勤勞精神の發揚を計り終つて中田農會長に製作品の批評をして貰う樣に成つて居る。

不況對策研究會

去る一月二十六日夜敎育部主催で開催す。種々意見發表が有り大体に於て現在を打破するは各自の精神如何に有るとの事に決定する。其の方法は委員會に一任にして具体的方法を究明樹立して全會員一丸と成り精神啓蒙の積極的運動を開始するとの。

開催豫告

◎研究會

一、日時　二月廿五日午後七時
一、場所　小學校紀念館
一、研究問題　各支會提出

主催　敎育部

竜丘消防組

＝年中行事＝

一月八日　出初式
二月上旬　幹部總會
三月下旬　特殊掛講習會

◎趣味の座談會開催

敎育部、圖書部合同主催で毎月一回月曜夜間貸出を利用して文學、時事問題、農業の三つに區分してして同好者は何時でも其の日に行つて各々意見發表及研究圖書の選擇等を行ひ益々其の奥義に入らんとするを目的とする會合である。

貳月十六日　時事問題座談會
三月十六日　農業座談會
四月二十日　文藝座談會

紅梅のたより

◎竜丘處女會

本年事業計画

一　月
一五日、普通訓練、母姉懇談會（壹月より二月迄）新年總會

二　月
一日、十五日、普通訓練、同日、日常作法講習（撫子組）、婦人衞生及應急手當

三　月
一日、普通訓練、六日、研究會、十五日、訓練終了式、男子訓練服講習（百合組）、年度末總會

所感

原生

昭和五年も歴史上幾多の特筆すべき事業を殘して終り、此處に六年度を迎へ世相は益々煩雜となり、政治的に思想的に又經濟的には未曾有なる經濟國難に直面して我々は全く激浪の中にあるが如くにて社會人心は稍もすれば生活苦からの反抗心と不良なる煽動とに相待つて思想方面に到つては憂慮さるべき事實の多々有る事を見る。殊に社會の現實を直視し、新時代を文化を追ふ青年の頭に政治運動も思想も是れが全く除外視さるべきでない。只急進的な青年の考が政治運動や或は思想運動の禍浪に卷き込まれるを恐れるのみである。吾等はそうした時代の潮流を靜視して正確なる批判をし實際を追究し進む事の出來得る丈の我々に健實さと知識を惜するのである。

次ぎの新時代が社會のより多くの人達が幸福になるのは他の誰がするのでもない。只それは其時代を創造すべき若き人々の双肩に有るべきと思ふ。

輕薄な思想などが社會の人々を幸福に出來得る物とは思はれない。あまりにも深酷な經濟的難局は放從な生活に馴れ過ぎた人心は爲めに萎縮せんと仕て居る。然れ共此の時に當つて吾等青年は一層健實勤勞なる歩みを續け、社會人心覺醒の先鞭を取り、正しき指針となり青年本來の修養と共に吾等の使命たるべきにして經濟的難局も人心の奮起により健實なる社會建設の出發点とさるゝ事あらば返つて難局も幸因となるべきと思ふ。（完）

桐林處女會たより

一月より三月迄の事業計畫
一月　新年總會　集議所掃除
二月　生花講習會
三月　座談會　年度末總會

裁縫共同勞作

昨冬十一月ー十二月中に裁縫練習の爲區内より縫物をお借し、會員を四組に分け區集議所、平事務所會員のお家をお借りして一組宛集り、巡廻にてその練習を勵みました。その結果を數字に現はせば、微々たるものでは有りますが斯した事に依つて、會員相互の親しみがわき、又裁縫研究も出來、その上少しの報酬を得、會の費用の一部にあてる事を嬉しく思ひます。以後も農閑期を利用して、これが練習を續けたいと思ひます。

長野原處女會

本年度事業計画

一月　新年總會、貯金例會
集會所座蒲團製作、
ピンポン練習會
二月　集會所掃除及び障子張替
三月　貯金會
洗ひ張實習（協同勞作）
大井水路取入れ口見學
集會所掃除、貯金會

時又處女會

行事豫定

一月　年始總會
二月　作法練習會　絞染練習會
三月　生花練習會　洗張練習會
初午バザー

上川路處女會

行事豫定

一月　五日○新年總會
十五日○公會堂掃除
二月　○懇談會　○母姉懇話會
十五日○公會堂掃除
三月　○十五日公會堂掃除
改良幡織講習會（三日間）

漫言（その壹）

小林洋吉

○偉人は其弱点になやんで出發した人である。と或る人が云つた。偉人か眞人か、兎に角自已の眞相を知るとなやみなしには居れぬ、之を苦にして正直に打つつかつて行くとき、必ず突破か解脱かして新天新地が展開する。それが第二の誕生だ。其基点から何程なりとも建て上げた人は尊むべき人だ。先天的優劣は我が云々すべき限りにあらず、如何に之を扱ふかが我が責任である。

○彫刻の大家岡倉文夫氏の話に「美術は天材でなくては出來ぬと云ふが大間違だ。要は努力の功を積むにある。生中天材は之に特むから却てかるい。音樂文學亦然り云々」と或る努力家が之を聞て自分の實驗と照合し大に感心したとの事、僕も此話しによりて、努力主義、一貫主義の偉力を一層信じ得た。

○古今東西の「之は」と云ふ人を見るに、一人として易々と其成功を贏ち得た人はない。必ずや人知れぬなやみと試錬の難關をキリヌケた人である。昔の混乱時代はよいが、今の樣に組織が大畧定まつた時、特に就職難の現時には、如何程苦勞努力してもダメダと云ふ人があるが、そんなものではない。人が信じてくれるまで、人が見つけてくれるまで、辛棒すれば、必ず芽口はあくものだ。要は結果に着眼するか、道程に興味を持つの違いだ。

○正月一友を訪ねた。今一人の友も來合せて、切りに俳句の話が出た。なんでも有りのまゝ自然を叙すればよいのだとて、引きもきらず自作他作を批評しては見せてくれた。俳句にも詩歌にも風雅の道に全く無頓着の僕、否青年期に幾らか頓着はしたが、俗物其柄にあらずとあきらめて、努力する氣にならなかつた僕に、一道の茶氣を催さしめた。龍となるか猪となるかは之からのお樂しみだ。

○書に就ても文章に就ても乃至講演、生活、凡て俳味が出る樣になれば話せる、又徹すれば自然そうなれると思ふ。曾て不折氏と全乘した時、書に就て聞た。俗臭を脱するにはどうすればよいかと、氏曰く書は人なり、書をよくせんとせば先づ人を更へるに在り、と僕啞然としてアイタ口が塞がらなかつた。

○書のみならず人の風采顔貌亦然りだ。今は面白いと云ふよりも滑稽だ。黑鼻をたらした樣な紳士があるかと思へば、長髪を後ろに梳り、わざ〳〵ゴロッキ風をして得々たる青年あり、美服粉黛、美を害して美人になりすまして居るお化け的美人あり、御大典祝賀の假裝姿を個々別々にして、嚴肅なる場面に時々見受くるとは變れば變る世なるかなだ。

（以下次號へ）

茄子と蕃茄の育苗設計

下平美喜

農業趣味の涵養、優良新鮮なる蔬菜の間斷なき自給と、農業經營改善とを目的として生れたのが私の蔬菜栽培であります。

新春を迎へて先づ第一に溫床の仕事にかゝります。私が溫床を初めたのは昭和二年の春、以後四箇年たゞ失敗を繰りかへしました。然し後二年の成績で多少の自信を得た樣に思ひます。胡瓜は未だ失敗の域を脱し得ませんから、茄子と蕃茄の育苗に就き今年の設計を記します。勿論只今の私の家の經營の内に於て私が實際に行はんとするものであります。

一、品種と數量

茄子、中生由茄子自昭和三年栽培
　栽植數一八〇育苗數二三〇
蕃茄、サッポロ、マーケット
　自昭和五年札幌農園新種
　栽植數二〇〇育苗數二二〇

二、床土の準備

前年五月より舊溫床醸熱物と多量の堆肥を田土と共に堆積腐熟。十二月と一月下旬切替川砂混合。二月初腐熟下肥を施して置く。二月中旬五分目篩を通して日當良き軒先へ搬入乾燥。二月二十五日迄に一分目篩を通して終る。土の量約六〇〇立方糎。

三、床孔　二月二十二日日曜

東西一、五米南北九五糎深さ中央四五糎南側六〇糎南側最も深く四圍之に次ぎ中央を最も淺くする。

四、踏込　二月二十二日

醸熱材料　藁一五〇把前日水氣を與ふ、米糠三八瓩人糞尿一一〇瓩長藁切藁人糞尿米糠切藁長藁の順に五層可成堅く上層地面と水平。翌日濕り加減を檢して人尿を注ぐ

五、木框　二月二十二日備付

木框の大さ一、二米、八〇糎。傾斜度は分度器を用ひ約一〇度。防風藁圍ひ北方二米東南西一米。

六、種子浸漬

木框備付と共に油障子をかけ茄子は翌日晴天なればその日より蕃茄は三月二日皿に清水にて浸し床内にて保護一日濕れる天龍砂中に入れ播種迄四十度以上の高溫の時は外へ出し夜間曇天には床内へ入る

七、床土搬入　二月二十五日

床溫持續確實と見た後、厚さ六糎籾殼灰二瓩一分目篩を通して混合

八、播種

茄子二月二十六日蕃茄三月五日南北畦十九條（十四條に五條）畦巾六糎條播、覆上天龍砂を篩で撒布、被藁古皆川莚二枚、灌水溫湯種子周圍濕る程度。

九、發芽迄の手入

溫度の調節と換氣、可成高溫を保たしむる樣被覆の除去に注意し四十度を越さゞる樣障子を開き調節

灌水　晴天溫暖の日午前十時溫湯四十度以下種子乾かざるを度とす

一〇、發芽　三月八日頃

点々發芽直に被莚除き、これより發芽整ひまで雜草拔取。

一一、發芽後の手入

溫度調節と換氣採光、溫床は最高限度三十度以上なる時は晴天無風外溫十度三糎十五度　十五糎二十度障子除くの標準に依り機敏に調節を段木を用ひて行ふ、寸刻たりとも日照時間を多からしむ、雨雪天なりとも一晝夜以上密閉せざる樣換氣を行ふ。朝夕被覆取扱特注意障子を開くも午後三時必ず密閉床溫を低下せざる樣、被覆暖き曇天は除き寒氣强く爲に床溫甚低下慮あれば除かず。

灌水　川水を汲みて暖め置き晴天溫暖の午前十時頃、翌日晴天ならば同時刻頃に萎れ氣味になる程度に多過ぎない事（根際腐敗萎凋倒伏）灌水后葉面の水滴乾かざる間は障子を除きて日光を直射せしめない事（日燒黃斑点）

間引　甲折葉充分開展する三月十八日頃までに間隔三㌢一條二五本茄子二五〇蕃茄二二五。

一三、移植　これより油障子を用ひ太陽熱のみを以てする冷床へ移る。茄子は一回、蕃茄は二回。蕃茄第一回移植本葉三枚三月二十日頃踏込を行はず藁を敷き床土は前同樣準備しその厚さ十㌢畦株間六㌢。茄子移植本葉三枚三月二十五日頃蕃茄第二回移植本葉五六枚四月五日頃何れも藁を薄く敷き腐熟豚肥を敷きアンモホス小許を撒布、床土前同樣準備籾殼灰混合厚さ十二㌢、晴天無風溫暖の日中本床へ充分灌水后畦株間十二㌢、根際を檢し僅少なりとも斑点（褐色）あるものは用ひず、立枯病被害移植后灌水充分微溫湯を用ゆ。

一四、其後の手入

溫度調節と換氣採光、移植當時數日間は特に寒氣寒風に注意保溫につとめ午后の密閉を早めて床溫を高めて被覆し障子の開閉標準は前同樣とするも四月中下旬とならば晴天溫暖の日中は障子を除き常によく日光にあてるを第一とする。

灌水　午前九時と午后一時萎凋したるを見て稍潤澤に行ふ。

害蟲驅除　移植の頃より蚜虫發生常に注意し發生せば直にデリス石鹸十六匁液撒布、四月下旬テントウムシダマシの捕殺。

一五、成苗　五月初旬

本葉八九葉茄子は小豆大蕃茄は麥粒大の花蕾をつけ晩霜の慮なきを待つて本畑へ定植する

以上

土の藝術

春近し

下平左田夫

明日の光明の前には
今日の苦惱を約束するんです
希望に生活することの試れん化

○

太陽と黑土と百姓との
合体哲理にしてあまりに貧弱な麥の芽よ
大宇宙の法則こそは變化である
嚴寒の積雪を忍受して
結實完成の日こそあれ

○

最后迄忍ぶ力！
壓迫は爆發だ！
踏みにじられた雜草の生命にも花に咲く
封建制度の彈壓は三世紀の夢を破つた
土に生きる兄弟よ、最后迄忍ぼう
踏みつける人間の殘酷さを
自然の暴威を慄れるな
乘るべき春への運命轉換こそ若き
××農民の旗標なのだ

○

こゝろ

丘路陽子

雪に埋れてほのぼの匂ふ冬薔薇
の紅きを見たり、誰が心ぞ
わが心の裡の最も近くに住み、
微笑を拋げんとすれば最も遠く
に存在を示す人あり
少年の瞳よ、きさらぎの空より
もなほ冴へてあれ、汝がこゝろ
とともに
さむざむと冬の雨が降る、醉ひ
みだれてゐる人の心にも
純情はもろき寶玉、その傷つき
やすい寶玉を抱いて、ひとすじ
のおもひよ、何處まで續く
雪の山脈を越ゑて旅人よ、まだ
行かうとするのか、がしかし彼
方の光りはまだ遠い
青竹に乘りて走りし雪の日よ、
呼べとかへらぬおさな心よ
しゆんしゆんとしのびよるゆふ
ぐれの氣配に幼い感情はまたし
やくりあげる
ふしあはせなものはふしあはせ
なもの同志いつかしら寄り集つ
て手を握つてゐる。

■……手前味噌の記……■

直接生活の資のための事業でなく、不如意な會計を工面し繁忙の身を以ての時報發行だから意に滿たない点、行き屆かぬ所の多々有る事は承知の上ではあるが、この点は讀者も諒とせられたい。

有形無形に應援下さつた方々に万謝してゐる。

次號原稿〆切……三月三十日